

**【中学校第1学年の実践】**

## 1 主題名

互いに認め合うために【B 相互理解、寛容】

## 2 教材

アイヌの人たちと共に生きる 加賀 伝蔵（北海道版道徳教材（中学校用））

## 3 主題設定の理由【指導観】

## (1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

相互理解、寛容とは、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの考えや立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくことに関する内容項目である。人間の相互理解は、自分の考えや意見を発信することが一つの鍵になる。様々な物事について、自分の考えや意見を人に伝えることは、人間関係を築き、相互理解を深めるために欠かすことができない。

人には、それぞれ自分のもの見方や考え方があり、個性がある。そこで大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。このことから、自分のもの見方や考え方を広げて確かなものにしていくためには、他者に学ぶことの大切さに気づき、他者の助言や忠告に謙虚に耳を傾けることで自らを高めていくことについて考えさせる指導が大切である。中学校の段階では、自分の考えや意見と相手との差異を理解しつつも、自分の考えや意見を伝えることの大切さを感じる機会が増える。また、伝えるとともに、相手の立場に立って考えや意見を聴くことで、真の相互理解が可能になることも少しずつ経験していく時期である。

第1学年の指導に当たっては、まず、個性とは何かについて理解するとともに、自分の意志に背いて安易に同調するのではなく、自分の考えや意見を伝えること、そして互いの個性や立場、文化を尊重し、常識にとらわれず、いろいろなもの見方や考え方があることについて多面的・多角的に考えさせ、相手の立場を理解したうえで、自分の考えを伝えたり、他者から謙虚に学び自らを高めたりする実践意欲や態度を育てていきたい。

## (2) 生徒の実態【生徒観】

相手の立場を理解した上で、自分の考えや意見を人に伝えたり、他者から謙虚に学び自らを高めたりする実践意欲や態度を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では、次のような指導を行っている。

## ①国語科「話すこと・聞くこと」

相手の立場を理解した上で、自分の考えを伝えようとする実践意欲や態度を育てるために、少人数で話し合う場面を積極的に取り入れ、自分の発言と他者の発言を結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして、自分の考えや集団としての考えをまとめる指導を行っている。

指導を通して、友達から学ぶことの大切さに気付くことができるとともに、人によっていろいろなもの見方が理解できるようになってきた。今後は、他者の考えを基に自分の考えを深めたり、他人と異なる考えであっても自信をもって伝えたりする意欲や態度の育成を図りたい。

## ②特別活動「学級活動」

相手の立場を理解した上で、自分の考えを伝えようとする実践意欲や態度、いろいろなものの見方や考え方から学び、自分自身を高め、他者と共に生きるという自制心を伴った気持ちで、判断し行動できる心情・判断力を育てるために、学級会の話合いの場面において、考えを發表し、深め合う場면을積極的に位置付け、自らの考えを他者に伝えるとともに、相手の話を聞きその考えについての自分の思いを伝え合う指導を行っている。

指導を通して、人によっていろいろなものの見方や考え方が理解できるようになってきた。今後は、他者の考えを基に自分の考えを深めさせたり、他の人と異なる考え方であっても自信をもって相手に伝えたり、自分と相手の考えを比べ自分の考えがどのように変わったのかを考えたりする意欲や態度の育成を図りたい。

## (3) 教材について【教材観】

異なる立場や文化をもっている相手に対して、自分を中心にした常識にとらわれずに、いろいろなものの見方や考え方が存在することについて多面的・多角的に考えさせ、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

本時においては、アイヌの人たちを理解しようとして行動し、自ら種痘を受けた伝蔵の立場に共感しながら、思いや考えについて、役割演技などを通して話し合う場面を設定する。

### 1 発問の工夫

- ◆意 図：①導入の発問では、生徒にとって身近な話合いの場면을想起させ、今の自分について振り返り、現在の自己の道徳的価値を意識させることで、振り返りの場面で道徳的価値の自覚を深めさせたい。(価値理解)
- ②伝蔵がアイヌの人たちのためにしたことやその時の思いについて考えることで、相互理解が図られ、信頼関係が築かれていったことを捉えさせたい。(人間理解)
- ③中心的な発問では、「伝蔵はどんな思いでアイヌの人たちに、自分の思いを伝えていたのか。」と問うことにより、相手の立場を理解するために行動することや、相手に自分の考えを伝えていくことの大切さについて、多面的・多角的に考えを深められるようにさせたい。(価値理解・他者理解)

### 2 学習指導過程の工夫

- ◆意 図：生徒が道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、道徳的価値の自覚を深めるために、伝蔵がアイヌの人たちに種痘を説得する場面で役割演技を行った。
- ◆方 法：伝蔵の役とアイヌの人たちの役の生徒がそれぞれの登場人物に自我関与させ、自分のこれまでの体験に基づいて即興的に演技する。そのことで自分自身の考え方、感じ方を自覚できるようにする。その際、役割を交代し、異なった立場で再度役割演技を行うことにより、多様な考え方、感じ方に出会うことで多面的・多角的に道徳的価値を考えられるようにする。必要に応じて、授業者が演技を中断させ、演技をしている生徒とそれを見ている生徒が話し合うことで、道徳的価値のよさや実現の困難さ、道徳的価値の多様さなど、道徳的価値の理解を深めさせる。(価値理解・他者理解)

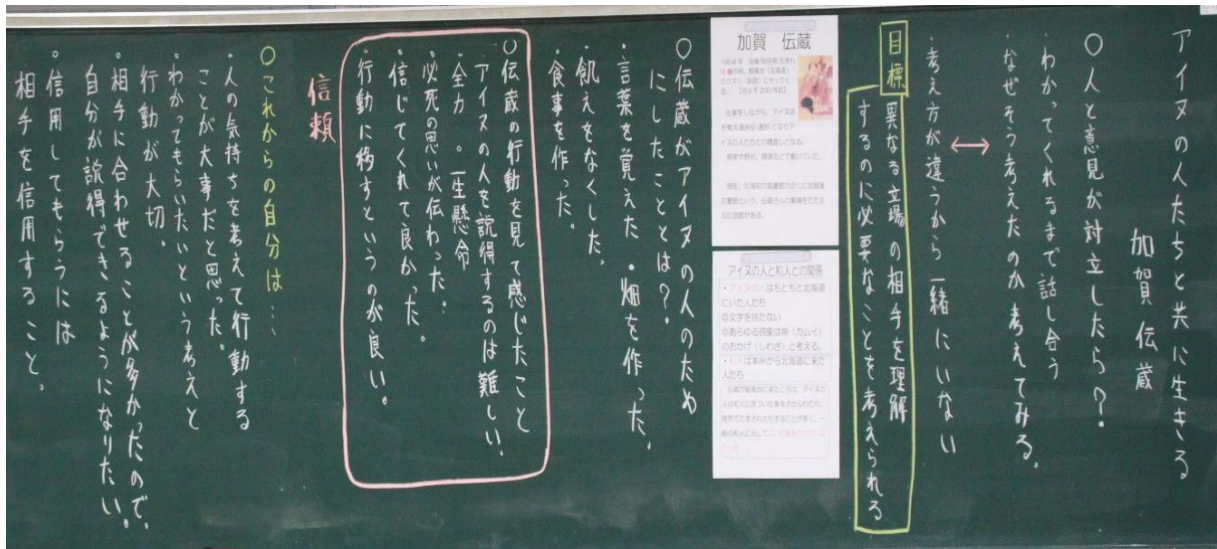
#### 4 ねらい

加賀伝蔵の生き方に触れることを通して、人には、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、相手の立場を理解するためにどのような行動をすることができるのかを考え、相手に自分の考えを伝えていく態度を育てる。

#### 5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 人と意見が対立したときの経験を出し合う。 ○ 意見が対立した場合、どうしますか。 ・分かってくれるまで話し合う。 ・考え方が違うから、一緒に行動するのをやめる。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自分と異なる考えの相手に対する行動を想起する場を設ける。	<b>【工夫①】</b> ・これまでの経験を振り返り、本時で扱う道徳的価値について、自分との関わりで考えることができるようにする。
展 開	● 教材「アイヌの人たちとともに生きる」を読み、話し合う。 ○ 伝蔵はアイヌの人たちのためにどのような思いをもって行動したのだろうか。 ・食事作り、事務仕事の手伝いで自分にできることで関係をつくりたい。 ・飢えから救うために土地の改良をあきらめたくない。 ・アイヌの人たちのために全力で取り組みたい。 ● 種痘を受けることを説得する場面を、伝蔵とアイヌの人たちに分かれて役割演技を行う。 ・信頼する伝蔵の言葉でも受け入れられない。 ・和人は信用できない。 ・何とかしてアイヌの人たちを救いたいが、思いが伝わらない。 ◎ 伝蔵はどんな思いでアイヌの人たちに、自分の思いを伝えていたのか。 ・アイヌの人たちを守りたい。 ・強くアイヌの人たちの命を救いたい。 ・立場の違いはあっても、信じてほしい。	・伝蔵がアイヌの人たちのために行った行動について考えることで、信頼が築かれていったことを捉えられるようにする。 ・即興性を大切にした演技を行い、ねらいとする道徳的価値に関わる局面で演技を中断し、演技を見ている生徒へ問い返すことで、話し合いを深められるように働きかける。	<b>【工夫②】</b> ・役割演技を行い、道徳的価値の自覚を深めるとともに、役割を交代することによって、多様な考え方、感じ方にふれさせ、多面的・多角的に道徳的価値を考えられるように配慮する。 ・演技を行っている生徒と演技を見ている生徒がねらいとする道徳的価値について話し合い、道徳的価値を深めるようにする。 ・役割演技後に、伝蔵の取った行動について、グループで話し合うことを通して、他者理解を促す。
	● 自己を見つめる。 ○ 自分と立場や考えが違う相手に対して、どのように関わっていきたいですか。 ・生徒会の話し合いで、相手と折り合いをつけて、意見をまとめたい。 ・部活動で、上級生だけでなく、下級生にも役割や活躍の場面をつくりたい。 ・相手と意見が違っても、考えの理由を聞いて話し合いたい。	・自分の生活や生き方を振り返り、自己理解につなげる。 ■ 自分と異なる意見や立場を尊重することの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	<b>【工夫③】</b> ・自分との関わりでじっくり考えさせるために、ワークシートに書く活動を十分に確保し、自己理解を促す。
終 末	● 教師の説話を聞く。 ※教師のこれまでの経験から、考えや立場の異なる相手のために理解しようとして行動し、理解してもらえたことについて話をする。 ● 今回の授業で感じたことをまとめる。	・異なる立場や考えの相手に対して、理解しようとする態度が育まれるようにする。	

6 板書



7 ノート・ワークシート

生徒番号 「アイヌの人たちと共に生きる 加賀伝蔵」

1. 人と意見が対立した場合、どうしますか。

2. 伝蔵の行動を見て、あなたも、どう感じましたか。

3. 今日の授業振り返りを読んでみましょう (その番号に「-」を付さない)

1. 資料について、興味をもって読みましたか？	4	3	2
2. 自分の考えや感情に込めることができましたか？	4	3	2
3. 伝蔵の考えや感情に込めることができましたか？	4	3	2
4. 自分の考えや感情に込める立場の相手の気持ちについて、深く考え込めることができましたか？	4	3	2

4. 自分と立場や考えが異なる相手に対して、どのような思いが持っていますか？

アイヌの人たちのためだけに、伝蔵のやったことがすごいなと思った。「アイヌの人たちの命を助けた」という必死の思いが、可憐だったわ。自分と違う考えの人にも、理解してもらえるように考えて、行動することってわかっても分る。

人の気持ちを考えて行動することが大切だと思いました。信用してもらうには相手を信用しなければいけない事が伝蔵の行動でわかりました。

年 組 番 氏名

【授業実践を振り返って】

中心発問の場面で、本時の道徳的価値の自覚を深め、多面的・多角的に考えさせるために、道徳的行為に関する体験的な学習として役割演技を取り入れました。生徒からは、

- ・伝蔵のアイヌの人たちの命を救いたいという、思いの強さが分かった。
- ・信頼できる伝蔵の訴えとは言え、受け入れられないアイヌの人たちの立場も分かる。

などの発言が見られ、立場によって考え方が異なることについて、多面的・多角的に考えることができました。

まとめでは、

- ・自分と違う考えの人がいた時には、相手に理解してもらえるように考え、行動することで、分かってもらえたり、信じてもらえたりすることを学びました。
- ・これから、自分と違う立場や考えの人がいたら、相手の立場に立って、物事を考えてみるという事が大切だと思いました。

などの記述が見られ、異なる立場や考え方なども尊重して相互理解を深め、互いに認め合う関わり方について考えを深めることができました。